

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援室STEP			
○保護者評価実施期間	令和7年3月17日		～	令和7年3月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和7年3月24日		～	令和7年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年7月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「こどものいいところに注目し、楽しくほめながら支援を行う」「好きなことを活用する」といった支援の基軸が整っている。	支援終了後の振り返りの場や、定期的な会議をとおして、理念や支援方法を共有している。 支援目標や支援方法を「具体的に（行動的に）」することを心がけ、好きなこと探しを全員で行うようにしている。	新しい職員に対して、研修を十分に行う。
2	職員配置を手厚く行い、こどもの実態に応じて、個別支援と集団支援を組み合わせで行っている。	利用しているこどもの状況にもよるが、なるべくこどもに対する職員の比率が1対1で配置できるようにしている。 その日の活動計画を必ず作成し、日ごとに細かく担当を決めたり、支援方法や支援内容を十分に共有するようにしている。	長期的な視点に立って、職員の採用や育成を進め、支援が継続できるようにする。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員や保護者に対し、マニュアル等を共有したり、非常災害の発生に備えた情報共有等が出来ていない。	目前のこどもの支援にばかり注目がちで、管理者の管理業務がおろそかになっているところがある。	マニュアルの公開を即時に行う。 非常時の対応の確認などを定期的に行う。
2	外に向けた発信が不十分である。 地域の他事業所との交流や、地域の住民の方との交流ができていない。	目前のこどもの支援にばかり注目がちで、管理者が全体像を俯瞰し事業所全体の運営を計画することができていない。	管理者が広報活動に力を入れる。（SNS等を活用した発信を行う、地域の児童発達支援センターが主催する研修会に参加し、顔合わせを行う等） 季節のイベントで、地域住民の方を招待する・訪問するなどを計画する。
3	（全体をとおして）開所して11年目になり、慣れが生じている。新たなチャレンジが少ない。	昨年度スタートした放課後等デイサービスに注力していることがある。 次世代を担う職員の育成が出来ておらず、同じ職員が同じ業務を担当し続けていることや、人手不足による余裕のなさなどが背景にある。	課題を自覚し、日常業務にも慣れが生じて疎かになっていることがないか点検する。 職員育成を積極的に行う。 新しい職員に新しいイベントの企画を考えてもらうなど、新しいチャレンジを行う。